

旧和田家に来たら 旧三橋家に来てね

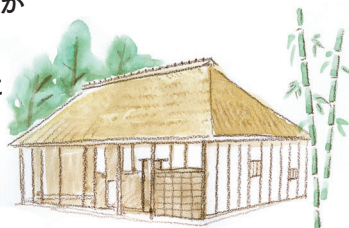
旧和田家の隣、浄見寺の境内に、旧三橋家が
保存されているのをご存知ですか？

こちらは、旧和田家が建てられる28年前に
香川村の名主を務めた三橋家によって

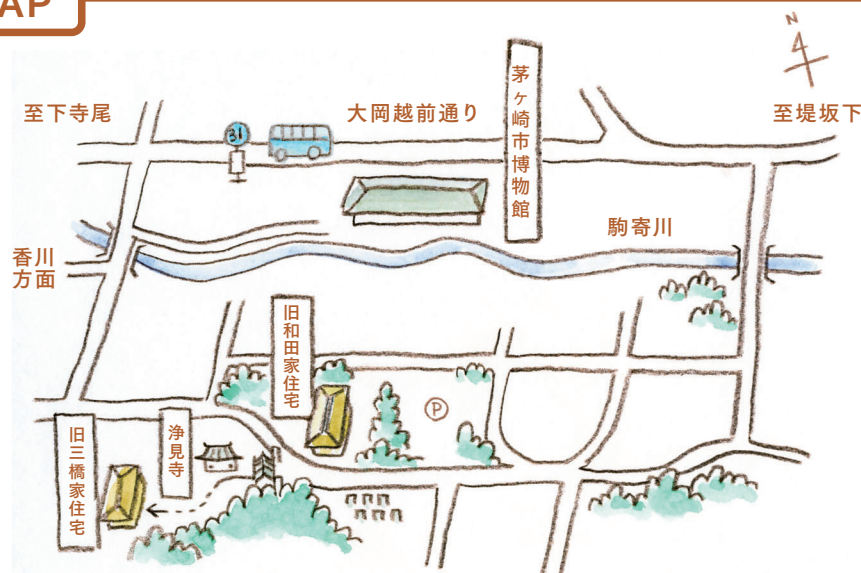
建てられた民家です。

四間取で土間が広いこと、地元産の材を

ふんだんに使っているなど、旧和田家と比べると
また違う特徴が際立ってきます。



MAP



開館時間 9:00~16:00

休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）/ 12月27日~1月4日

お問合せ 茅ヶ崎市博物館 0467-81-5607



*表紙は、小出小学校5年生（令和2年度）が「伝えよう！旧和田家」の授業で制作したポスターを元にデザインしたものです。
*本文中の一部の内容は、東海大学工学部建築学科小沢朝江教授の「旧和田家住宅の普請と職人」（文化資料館調査研究報告18・2009）、
「旧三橋家住宅の普請の様相と平面・意匠の地域性」（同報告27・2018）に基づきます。
*本紙では、旧和田家住宅のことを旧和田家と称しています。

2021年9月作成
2023年2月修正

ようこそ！ 旧和田家へ



茅ヶ崎市博物館

築約160年の家

江戸時代を感じる家、旧和田家

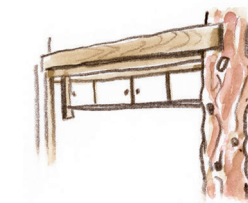
細かいところも見してほしい

旧和田家は、1855（安政2）年の萩園村（現茅ヶ崎市の西部）に、
村の役人を務めていた第11代和田清右衛門によって建てられました。
江戸時代末期の大型民家の特徴を色濃く残しており、当時の建築や
くらしの様子を知ることのできる茅ヶ崎の宝として今も大切に残されています。

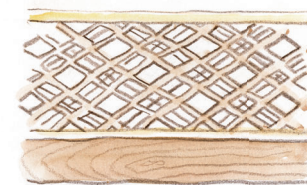
家のあちこちには細かなデザインがちりばめられています。室内の壁が漆喰
だったり、床柱は白檀の木、菱形模様の欄間などなど。見学するときは、
そういったこだわりのひとつひとつにポイントを置くのもツウですよ。もしか
したら和田清右衛門さんはとてもおしゃれな方だったのかもしれないね。

みんなでワイワイ建てました

旧和田家を建てたのは、大工・木挽・石屋・左官・
屋根屋・畳屋・建具屋といった職人だけでは
ありません。村人も木材を運んだり屋根を
葺いたり、さまざまな助け合いを行っ
たそうです。しかも、萩園村だけでなく
近隣の村の人々までも駆けつけたと
のこと。その数はのべ1000人を超えた
そうです。



オクノマの床柱（白檀）



ナカノマの欄間



ナガトの板戸の引手



換気口

地の利を活かして適材適所

もともと旧和田家が建っていた萩園村の西側には、相模川が流れ
ていました。このことが、立派な家づくりに大いに役立ちました。
家の柱や床などそれぞれに適した木材や板などに加工された木材
を、水運を利用していろんな土地から取り寄せることができた
のです。当時の最新物流システムを大いに利用して、いわゆる
適材適所を叶えた、ということですね。



豪華な間取りです

江戸時代末期の民家は、4つの部屋か
らなる四間取がスタンダードでした
が、旧和田家は六間取。つまり、6つも
部屋があるということ。しかも、通常の
入口に加えて身分の高い来客専用の入
口（シキダイ）までもあるというから、
これはかなりの格式の高さです。さす
が、村の役人というだけありますね。

